



**楽しい憑依の
チュートリアル**

お試し版

ボデ○ンジャツク楽しい幽○離脱CG集

楽しい憑依のチュートリアル



憑依アニメ「ボ○ンジャツク 楽し○幽体離脱」の二次創作CG集です。様々な憑依・入れ替わりのシチュエーションCGに加え、ノベル風の文章を付け加えてエロシーンにしました



ノベルのシチュエーションは～

- ◆こまば (in阿佐ヶ谷) 4P編
- ◆阿佐ヶ谷 新憑依編
- ◆こまば×阿佐ヶ谷 (阿佐ヶ谷編)
- ◆こまば×阿佐ヶ谷 (こまば編)
- ◆こまば (in阿佐ヶ谷) ご奉仕編 (F0ラ)
- ◆奈加乃×阿佐ヶ谷 (入れ替わりセックス編)
- ◆こまば×奈加乃×阿佐ヶ谷〔精飲編〕

さらにボディ○ャックの簡易解説
+おまけも有ります

兄さんとセックスを始めた。
体位を変えて、抜かずにそのまま一回戦だ。
兄「おい、こまば、凄いな、まだ物足りないか。
よし、今日はとことん頑張るぞ」
しかしまだ硬さがもどらない兄さんのモノを。
ボクは腰をひねって刺激し続けた。

兄さん
兄さん

もつと

あ

あ

ボクはラフトマンドクンドクン
思いっきり啜ッ

取ると、こまばさんの膣から
溢れるのが見えた。
「あ、よね」

「こまばさんとセックス、
はこまばさんをベッドに押し倒し、
揉んだりキスしたり愛撫したあと、
むろにそのチ○チンをこまばさんの中に挿入した。
こまばさんとセックスしているんだ！」
「あ、阿佐ヶ谷君。がっつかないで、ゆっくりね」
「んからたしなめられたが
んは止まらない。
シン○ンが言う事を聞かなかった
なさい、こまばさん。
は荒々しくピストン運動を始め
はさんの体内の感触を味わった
はさんにこまばさんの喘ぎ声が聞こえる
ん、あーん、あああ
佐ヶ谷君、なかなか上手よ……」
「ああ、おお、うおおん」
「いいよ、阿佐ヶ谷君。今日は大丈夫だから
にボクは二層興奮し
ちのうちに出してしまっ
ゲ谷「あああ」
ドクンドクン」

CG13種、
(差分含め文字なし36枚・
ノベル35枚・解説含めて計74枚!)
さらにおまけアリ

阿佐ヶ谷がこまば、**奈加乃と**
入れ替わりセックス

女体化したら
フロラがたくてしょうがない...

ポクは意を決してこまばさんにその事をつけ
応じないなら兄さんたちとみっ●ている事をばらす
こまばさんは
「ふーん、阿佐ヶ谷君とか…」

と、案外まんざらでもふん言
「うふふ、別にいいさ
小悪魔

新憑依編

妹、兄、それぞれに憑依して。

「だ、こまば。この体位、
つ、兄さん。
ん、奥まで来てる…
めん、ああん、あはああ
ら新しく買った幽体
つてこまばさんの部
んは兄さんとのセ、
二人は暇さえあれば
んっ、おおっ、あ
いいよ、こまば
は「にい…さん、あ
ん、あ…そこ
と、もつと突いて

「まずい、このままだと
2人ともイっちゃやう。
セックスが終わっちゃう。
早くどっちかに憑依しないと。
でも、こまばさんに乗り移って男として
女の快楽を味わうべきか、
兄さんに移り移って兄さんがいる事を
こまばさんにイカせるべきか、
ポクは迷った」

兄「ん、ん、うあつ」
こまば「あん、あん、あん、あん」
こまば「ああつ、あ
「あ

ぎいやあああああつ

広田「ほらっ、ほらっ、僕の
こまばちゃんの子宮が吸
兄「おお、こまば、もつと吸
そうだ、いいぞ。兄さん
広田「ああつ、僕ももう出
「だ」
「うはあ」

それっ。ああ、もつと吸え、喉
う限界だ、出すよ、こまば
「ああああ」

男二人に後ろから前から これが女の絶頂…

子音

こまば (in 阿佐ヶ谷) [4P編]

こまばさんの部屋へ帰ったボクは
すぐ全裸になってこまばさんの体でオナニーを始めた。
奈加乃とレズ行為をするうちに
こまばさんの感じるところが段々わかってきたからだ。
もうボクは、こまばさんでオナニーしたくてたまらなかつた。

「あん、あん、あはあああん」

「はううううつ、あはあん」

「ひいつあはあああん、あふうううう」

思った以上にこまばさんの体は
感じやすかった。

クリトリスからビラビラの
周りをなぞると

ゾクゾクとする快樂が
股間から下腹部に

広がっていく

「はうん」

「あーああああ」

「ああん、んんんんん」

全身を快樂が包み込み、
絶頂も間近いと思われたその時、

「ようこまば、今日はウォーミングアップ十分じゃないか」



そう言っつて見上げた先には、
一人の全裸の男が股間を怒張させて
立っつていた。

兄「このごろ兄さん、お前の相手してやれなくてなあ、
いやあ わりいわりい」

そう言っつと悪びれもせずそのまま
こまばさんの体のにしかかっつてきた。

聞いたことがある、

こまばには義理の兄さんがいる事を

ちよっつと、おい、おい、マジか、マジかよ

ぎい やあ ああ ああ ああ つつ つつ



兄さんはこまばさん(の体)を押し倒すと、
キス、舌入れ、乳揉みなど愛撫を始めた

こまばさんの性感帯を知り尽くしたような動きに
ボクは嫌悪感を忘れ快樂の虜になっていく

「あん、あふうう、あん、あん」

「あああああんんんんん」

やがて膣奥からも

さっきのオナニーの時とは違う
愛液が流れてくる。

「あふうううんうううううう……」

声のトーンも変わってきた。

すると兄さんは立ちあがって股間のモノをつかむと
腰を落として何も言わずに
こまばさんのおマ○コに
その太いチ○ポを入れてきたのだ。



『おい、ばか、やめろ、気持ち悪い…きも…きも…』

『あ、あれ？ あれれ…？』

『気持ち…いい…』

『気持ちいい…』

『もつとお…』

オナニーの指先ではたどりつけない

膣の深い所まで侵入してきた兄さんのモノは

その節くれだつたカリで

こまばさんの膣内なかをかき回す。

『はああああああん』

『だめえええええええ』

『きもちいいいいいい』

『んはあああああ』

『もつと、もつと』

『掻かきまわしてえええええ』

ボクの口から

自然に嬌声があふれてきた

こまばさんも毎日こうやって

兄さんとセックスしていたんだろうか

阿佐ヶ谷 新憑依編

こまば兄「どうだ、こまば。この体位は」
こまば「いいっ、兄さん。」

兄さんのモノ、奥まで来てる…

ああん、あん、ああん、あはああ」

塔山博士から新しく買った幽体離脱マシーンで

幽体になってこまばさんの部屋に来てみると

こまばさんは兄さんとのセックスの真っ最中だった。

やっぱり二人は暇さえあればセックスしてたんだ。

兄「んっ、んっ、おおっ、ああ、

気持ちいいよ、こまば」

こまば「にい…さん、あたしも

あん、あん、あ…そこ

もつと、もつと突いて…」

まずい、このままだと

2人ともイっちゃって

セックスが終わっちゃう。

早くどっちかに憑依しないと。

でも、こまばさんに乗り移って

女の快楽を味わうべきか、

兄さんに移り移って男として

こまばさんをイカせるべきか、

ボクは迷った

兄「ん、ん、ん、うあっ」

こまば「あん、あん、あん、あん」

こまば「ああっ、あ——ん、

「あ——」

「こまば×阿佐ヶ谷」阿佐ヶ谷編

こまばさんの体で兄さん達との4Pを経験した後、ボクはどうしてもこまばさんとの生のセックスをしたくてしようがなかった。ボクは意を決してこまばさんにその事をつけ、応じないなら兄さんたちとやっている事をばらすとまで言った。こまばさんは

「ふーん、阿佐ヶ谷君とか……」



と、案外まんざらでもない言葉を発し、

「うふふ、別にいいけど私をイかせられるの?」

小悪魔にも似た笑みをうかべ、こまばさんはその日の放課後僕の家に戻ってきた。(奈加乃に見つかってないよな)

ほ、本当にこまばさんとセックスできるの?

僕の部屋に入るなり、こまばさんは制服を脱ぎ始めた

阿佐ヶ谷「こ、こまばさん」

こまば「だって裸にならないとセックスできないでしょ。」

それとも、制服プレイがお好みかしら」



ボクが応える間もなくこまばさんはブラジャーもパンティも脱いで全裸になってしまった。ボクもあわてて全部脱いで素っ裸になる。

こまば「うふふ、阿佐ヶ谷君、もうギンギンね」

阿佐ヶ谷「え? ああ、それはもう……」

ボクのチン〇ンははちきれんばかりに怒張っていた。

ボクはこまばさんをベッドに押し倒し、
胸を揉んだりキスしたり愛撫したあと、
おもむろにそのチ○チンをこまばさんの中に挿入した。

ああ、こまばさんとセックス、
こまばさんとセックスしているんだ！
こまば「ああん、阿佐ヶ谷君。がつつかないで、ゆっくりね」
こまばさんからたしなめられたが
もうボクは止まらない。
体が、チン○ンが言う事を聞かなかった

ごめんなさい、こまばさん。
ボクは荒々しくピストン運動を始め
こまばさんの体内の感触を味わった
動くたびにこまばさんの喘ぎ声が聞こえる

「あん、ああん、あーん、あああ」
こまば「阿佐ヶ谷君、なかなか上手よ…」
阿佐ヶ谷「ああ、おお、うおおん」

経験の少ないボクはたちまち暴発したくなった
阿佐ヶ谷「こまばさん、このまま中に出してもいい？」
こまば「いいよ、阿佐ヶ谷君。今日は大丈夫だから」
その声にボクは二層興奮し
たちまちのうちに放出してしまつた
阿佐ヶ谷「あああ」
ドクンドクンドクン

抜き取ると、こまばさんの膣から
精液が溢れるのが見えた。
こまば「これで終わりじゃないよね」

こまば(阿佐ヶ谷)「ご奉仕編」

今日もまたボクはこまばさんの体に憑依して
こまばの兄さんたちにご奉仕している。

もうフエラチオも慣れっこになってしまった。

「んむ…ん…あむ…」

こまば兄「あ…うまいぞこまば。

この前よりどんどん上手くなっているじゃないか」

広田「こまばちゃん、次は僕の番だよ」

こまばの兄さんはカリが大きくて茎も太いので
啜え甲斐がある。

ボクは喉の奥まで飲み込み

舌を使って刺激を与える

れるれるれる

んむっ んむんむ

んむむむむ…

むはあ

こまば兄「お、おうふ…こまば…

いいぞ、そこ、もつとだ」

亀頭が膨張し、爆発が近い事を予感させる。

ボクはラストスパートをかけるつもりで

思いっきり啜え込んだ。